



中流山集
十二



利 5
1979
11



正徳の御入道にてお祓正月

うしろの御入道にてお祓正月

日守の御入道にてお祓正月

佛の御入道にてお祓正月

文の御入道にてお祓正月

年中此の御入道にてお祓正月

老の御入道にてお祓正月

小妻の御入道にてお祓正月

お祓正月にてお祓正月

徳野山の御入道にてお祓正月

お祓正月にてお祓正月

十月の御入道にてお祓正月

お祓正月にてお祓正月

お祓正月にてお祓正月

お祓

月

正徳

貞宣

保友

長宅

伊人

室友

治定

政盛

玄茂

祐政

良保

お祓正月にてお祓正月

お祓正月にてお祓正月

お祓正月にてお祓正月

お祓正月にてお祓正月

お祓正月にてお祓正月

お祓正月にてお祓正月

お祓正月にてお祓正月

お祓正月にてお祓正月

お祓正月にてお祓正月

お祓正月にてお祓正月

お祓正月にてお祓正月

お祓正月にてお祓正月

お祓正月にてお祓正月

お祓正月にてお祓正月

お祓

月

正徳

貞宣

保友

長宅

伊人

室友

治定

政盛

玄茂

祐政

良保

氏神もあらそ生れくころ了あ守 夕霧
 小妻也之申初書と花に花ち本 常眠
 小妻也も学あるあいのいあ固前守 政次
 海あ此霧や小妻此れは新あ後 律中
 小妻にもあとうらわらあし村 重信
 妻と妻と秋とさあとの志と秋
 わきこと霧蒸は何とあし月 月

時句

時句の流しや霧の垂るわけ
 脚もああ冬はきこ山と山
 心もぬきハ衣笠山の時句
 霧蒸すく明ら時句や二言海
 時句ハ誰か滅そわうれ寒さ
 神くの為重やア人舞あはは時句
 八重さるああ徳園と志ら時句
 雪見仲の芭蕉ていほ初時句

天気がくらくらりきりし

定ぬるまじぬぬやまのきり

中山や書つらそそまじぬぬ

須弥山や書つらそそまじぬぬ

少き南のまじぬぬの山く小時ぬ

冬あていっしんりきり小

小時ぬあつまふや林のちぬ

林は月つ影ふも無き志

林は月めらり時ぬ此結身外

換足母らり小時ぬやふを月

十月と六の花をまじぬぬ

一とあそし十月あつき

いふまじらひ志らあつき

夕時ぬあつらりや南河原

麻戸如籬と志らまのりや

海の子らもりあつらり

子安

津

塩

津

田

田

田

田

田

夕翁

如貞

如貞

如貞

如貞

如貞

如貞

如貞

津

福智山

粉川

子安

如貞

道勝

粉房

忠益

定定

内んきしや孫七さかきりし時海了壽 久義
 水りか行と志んきん大紅蓮石 貞勝
 志んしんかろたしむわを村如 良任
 時わあゆわ並んふの志んきん如 能昌
 わし孫ふ志んしんかろたしむわ安徳院 良和
 海きあ治りしん池の志んきん泰 正徳
 志ん脚をくの時ぬれん石 志昌
 志の目わや志んかろたしむわ石 信元

河意比時白の多うの屋形舟下 後貞
 水方ぬらんかどわく時ぬれ石 政原
 夕らこれわけておるわを時ぬ榮 秀保
 志ぬきし一並わさすのぬれ了壽 久義
 ぬりぬらんか時ぬれしん伊 一葉

小野

小野の奥をあらり風の時ぬ松 保友
 夜もわたり時ぬれをわさる新川 玄樞

時を乃て法をもちて

唯礼とてさくわらり志く

善 貞利

世とわらうの縁の時を乃て

法あり 不存

乃の時を乃て法を乃て

長流

じいしを乃て乃の時を乃て

月

川とて乃て乃の時を乃て

く

乃の時を乃て乃の時を乃て

く

乃の時を乃て乃の時を乃て

く

法を乃て乃の時を乃て

山とて乃て乃の時を乃て

く

乃の時を乃て乃の時を乃て

く

乃の時を乃て乃の時を乃て

乃の時を乃て乃の時を乃て

乃の時を乃て乃の時を乃て

乃の時

之ひもせむきまう神の時
時系ちの時由たらんやあま瑞

冬紅葉

毛纏りらりあくふれん
紅葉あぬ山を地魚よの小神
紅葉ちり山にけし縁と云来
こひ紅葉ちり流きつくや
ふと山あつた紅葉や御走の

冬
生毫
玄徳

東福寺野山毛あ海天

乃紅葉とみく

通天のりも地や日中野山
人北級うすや杉葉のあう
冬らぬ紅葉や風うゆり
紅葉あひく由北野き紅葉
赤い杉葉乃中はあこ紅葉

本葉付落葉

勝之
董林
長藤

宗祇十子遊若也

比類へら珍らぬ本乃懸時句
 本繁此語あやむや大と物
 新つる時句あしつる本此繁
 本此まのりつ元るんも谷の
 山風あきよせ行ふ本此繁
 猪も本うら落ふ端此本の繁
 月くると本此もや天物くも山

本乃ちや落懸衣の端縫針
 本繁衣乞ても極る岩か非
 雪と綿あままん本此繁乃衣
 本乃懸衣朽ふら衣の少る衣
 風あつらつる時句とちつら本
 此の谷や本此繁乃の脚と
 うまのりつるもとにや本此繁
 わやくたつと本此繁乃の時句

貞利
 玄母
 英秀
 玄巖

本意家より地次越のあり

長登

あのこありもあまつりの孫の

月

六波羅にて

地ありくちより落れ本意

う三月もいぬあのをく山あり

山通よりくは本意天狗

鶴鶴のまゝうちて乃森は落

小河色にめて落れ本意

りふれよてあらそく能得

の教りくくあらまの時

うやいもあわぶつちの落れ

山娘のうらまゝの落れ本意

物のまや落てまゝの落れ

冬草

す孫孫もやまていすれつ極登

深まいもまてあつた夜は

右左
自好
昌長

水仙花

雪花やまきえうりさく水仙花

長谷

の雪回さくゆりかたの雪花

政信

花シガまじりたる人のみとせん

利政

水仙の花もまきえくまひか

長谷

ふれ一々のすかしの地と

池の傍さくさくさく東

の流脚さくさくさく

時

池の傍さくさくさく東

むわけてまきえくさくさく

枇杷花

むとの花さくさくさく

蜂丸やまきえくさくさく

おさくさくさくさくさく

花とひらひらさくさく

李園のふゆりちんちん花
冬の花実終りひよりの花
採採めさくさくめよむをむ
花さぬをさくさくめよむをむ
咲くやんの花乃むをむ

茶花

けふりちんちん茶葉の花
茶乃花の細さくも

法之
茶
助
也

茶の花やさくさくめよむをむ
花さぬをさくさくめよむをむ

也

冬菊

花らりさくさくめよむをむ
冬菊の花やさくさくめよむをむ
花らりさくさくめよむをむ
冬菊の花やさくさくめよむをむ

冬菊
也

心よりえとよき臘月のまじり
兼輔の川也縁うらな月乃白氣
池よりかひくはく月の影のふ
月雲をほのぼの切つくを未か

番井とて

月雲もあつらふとみるたる井水
おまの月をあら川を未か
雲乃兼縁うらなとみる月

鳥
梅成

系
友成

中物
後成

本系
久英

月あつらふとみるたる井水
水雲のふりんきしるを餅月成
月あつらふ風をあらはし人夜
旅旅くまふ人河切おさうの月
雲と月おあはれもよるる氣
臘月のまじり人月乃氣成
芭蕉のまの雲をよるる氣

一滴

英成

物成

貞利

林成

芳成

長成

月

たうらひくわあそ月の水鏡

歌

靴の押く松の落葉も銀の針
礎イシノと流るるや靴のしら
糸のおもふ世のあつたるあつた
水とハハ靴ハとさしり靴をハ
あふても靴のあつたの松柳

連歌

ほのみふふの卒都路の靴櫃
夏は虫あつて靴入靴櫃
大地のうらさゆらや靴櫃
ゆききの櫛梳るれや靴櫃
塩舟似くあふありし靴櫃
笠ねやより下葉は靴がわひ靴
靴櫃の海舟もやけゆり
ゆりの舟の笠もあつた靴

い月の名もまたたけぬ

糸羅とつるべき

本はまこと

切り目ふるま

冬の野は

風も

林をの

行く

何乃本と

物毎

高の

よき日

何乃

物毎

物毎

立

立

季吟

月

心

心

良和

心

心

貞利

貞利

貞利

政位

政位

政位

時由是此中やうなり

定意

日わきせ六月の梅道は

高家

藤原の帆やうらな

高家

眉目さおのころ

高家

らん志やうやむ

高家

水乃ころい生

高家

布為

空のくも

高家

舞るうい

高家

きり

高家

木の

高家

おの

高家

國ゆ

高家

田若

高家

あや

高家

大悠

高家

冬なきし野文目の靴の白袴

松山

保友

靴の袴をきくは花障子の

松山

照秋

靴の袴は目よりなり穴の

江戸

一貞

靴は袴をきくは初より

松山

林森

さゆら靴の袴は調子の

松山

文義

靴は通よりくはくは

松山

文義

靴はをきくは襦袢の

松山

利政

靴はをきくは袴の

松山

保友

靴はをきくは袴の

松山

昌海

靴はをきくは袴の

松山

保友

靴はをきくは袴の

松山

保友

靴はをきくは袴の

松山

保友

靴はをきくは袴の

松山

保友

靴はをきくは袴の

松山

保友

靴はをきくは袴の

松山

保友

靴はをきくは袴の

松山

保友

町ん勢を流る流るもあはれ

國書

夫と地と厚のりあはれ

政次

生るもあはれ増えりやけされ

長流

成神あはれも神く痛く知れ

月

山もあはれ厚くはれあはれ

鬼神もあはれあはれあはれ

穀地もあはれ厚くはれあはれ

是れ流るもあはれあはれ

あはれあはれあはれあはれ

流るもあはれあはれあはれ

商人の宿あはれ

子もあはれあはれあはれ

穀の花もあはれあはれ

穀の甲もあはれあはれ

物もあはれあはれあはれ

肩もあはれあはれあはれ

義

と と と と と と と と

教

茶の産録りのいあしの産

字治めく

教ちりあふまのまはねん海
 本の茶うい教わ天物産
 教らくまはねんもやま産
 多他のあまゆら産
 御全利の権乃との玉産

教く本の茶は花茶
 や孫りやあらく
 とらまあの産のとらま
 海中の産のとらま
 時もともれの酒を
 お産茶も

南方日を天らりらるも
 十二

玉露の如く清く似たり玉露
蘇州の如く行 鐵炮の玉露
藤の葉の如くくから玉露
少りまゝの如く玉露
風の如く押揉の玉露
風の如く玉露
ふらふら玉露の如く玉露
冬玉の如く玉露

玉露
玉露

の如く玉露の如く玉露
矢のつら玉露の如く玉露
ある玉露の如く玉露

玉露
玉露
玉露

振舞玉

玉露の如く玉露の如く玉露
玉露の如く玉露の如く玉露
玉露の如く玉露の如く玉露
玉露の如く玉露の如く玉露

玉露
玉露
玉露
玉露

高佛かたなりおつくわく進

津田

ゆき

海よりか敷を粒珠の雲佛

津下

雲定

雲と起しゆくも粒珠の雲敷

多川

如貞

厚氷よりや露のたま敷

如風

門中ましくいらくらりや珠の砂

知之

むやみゆりゆく宿の雲

次倉

たまも縁く雲のあらむ

鳥海

ありとこけなわあきま

友家

今秋雲かまうか敷や産孫大

心志

河津よりまゆくや珠のりほ

了庵

少つれてかき人お敷の雲に

雲

一天下むと雲のつりま

長龍

大敷をとりてあされとくわ

心

あまげくむかぬは雲の雲

心

風のまは雲をまらゆく雲

心

雲かまうまうの雲

心

肩とあしてさふませる此^此酒^酒
 飲新好^好あまら^{あまら}わ^わし^し此^此漢^漢
 正^正如^如笑^笑

漢色^{漢色}あ^あく^く

さ^さく^くさ^さく^くあ^あく^くわ^わの^のん^んさ^さけ^け漢^漢
 さ^さく^くさ^さく^くあ^あく^くわ^わの^のん^んさ^さけ^け漢^漢
 神^神の^のさ^さく^くさ^さく^くあ^あく^くわ^わの^のん^んさ^さけ^け漢^漢
 く^くり^りん^んわ^わ酒^酒は^はく^くわ^わの^のん^んさ^さけ^け漢^漢
 さ^さく^くさ^さく^くあ^あく^くわ^わの^のん^んさ^さけ^け漢^漢

氷

あ^あく^くさ^さく^くあ^あく^くわ^わの^のん^んさ^さけ^け漢^漢
 水^水の^のあ^あく^くさ^さく^くあ^あく^くわ^わの^のん^んさ^さけ^け漢^漢
 浪^浪の^のあ^あく^くさ^さく^くあ^あく^くわ^わの^のん^んさ^さけ^け漢^漢
 一^一面^面の^のあ^あく^くさ^さく^くあ^あく^くわ^わの^のん^んさ^さけ^け漢^漢
 さ^さく^くさ^さく^くあ^あく^くわ^わの^のん^んさ^さけ^け漢^漢
 鼓^鼓の^のあ^あく^くさ^さく^くあ^あく^くわ^わの^のん^んさ^さけ^け漢^漢
 あ^あく^くさ^さく^くあ^あく^くわ^わの^のん^んさ^さけ^け漢^漢

浪を垣 高の麓より氷の那
 高此おやゆ火鑪斗とからる
 高餅もそまう 氷砂糖か
 おもあまの浪や氷のそり較
 うはゆりゆとや氷はそり枕
 町をあらて氷やうらる橋河
 おもそけ氷とあらやうらる
 餅高とそまうらむやうす氷
 浪は高のそりてしり氷
 紙屋川 百重つりまう氷
 目の目とぬ浪高のそり氷
 一かんの池の氷や大町へん
 梅乃は氷水や銀の竹あり
 高あまの甲ゆりらる氷
 氷梅や家と蓋とらる氷
 おの氷とらるこまやまら

十六

多のふそくさくえ世水面
 水らり池を鏡の鏡形も
 鏡もよとじり水の鏡も
 ひらきさるえくさし厚
 水らり池を鏡の鏡形も
 冬いとおもきあ川やあ
 あるふくわらたの厚水
 新屋敷此壁のつて橋

つと

多のふそくさくえ世水面
 水らり池を鏡の鏡形も
 鏡もよとじり水の鏡も
 ひらきさるえくさし厚
 水らり池を鏡の鏡形も
 冬いとおもきあ川やあ
 あるふくわらたの厚水
 新屋敷此壁のつて橋

李吟
 新屋敷
 政長
 政信
 政俊
 政長
 政信
 政俊
 助喜

あつと煮あやまらあ

体本

先中の中あきり

あくくひさせ

あけあやま

あらくら

あつ水の中あつたあ

中水

貞空

あつあつあつあつ

あつ

政原

浪のあやま

あつ

安助

水あつあつあつ

あつ

あつ

あつあつあつ

あつ

あつ

あつあつあつ

あつ

あつ

あつあつあつ

あつ

あつあつあつ

あつ

あつ

あつあつあつ

あつ

あつ

あつあつあつ

あつ

あつ

あつあつあつ

あつ

あつ

河急しよぬ推さる氷の部

あまのこも氷砂糖の出所

鳥丸亞相江戸のりり

のすくすくけきい大石

とも多きぬむとそ

馬乗りたれて雪らうぬ種

と出付るさうぬ 藤句

かきこひもりして酒ら厚氷

さうらひてさうぬ氷のさう河

うぬ氷さうぬや清みたけわ河

氷川けさの氷やぬれじとひ

東の流は結る氷のまへ河

さうらひのす

氷根さぬまきさうけら氷か

氷松杓めとさうら氷の

氷瑠のさぬとさう氷の糸

二

三

二 二 二

二 二 二

二 二

やう梅はまきしつる雪を

年此内は咲ぬ梅や雪の影

あふ家さしむる冬

冬よりとさき智恵にまを

美の季と作きのうらふ毒

十二月いそみぬ梅よこ

山花も風とむらとを冬あり

雪は花をさし子の木は母

雪は肉のめんくい毒はすま

冬候と出るや梅の町まを

町のうらめ候やがを園梅

うらめ候やがを園梅

冬候やまのめんまの梅

小笠原

梅の神木るしや雪は梅

知るるるるるるるるるる

宗貞

素直

几雲

夕霧

と

盛唐

伴入

気保

如貞

春

貞利

長歌

空梅の年よりの花地先

十一

十二

月

